



しるばあくらぶ

第68号

SILVER CLUB Office : B-4 L-12 Ph 5BB.Cristobal St.Gatchalian. Subd.,Las pinas City ☎:825-6118

2012年3月18日(日),6PM~8PM「きくふじ」にて、しるばあくらぶ出席者名(敬称略)

西村(夫妻)、加藤(夫妻)、池田(夫妻)、藤井(兄夫妻)、浦野(夫妻)、宮下(夫妻)、鈴木、門田、石山、原田、片渕、藤井(弟)、落合、山本、辻、藤村、植木、細谷、中尾、河村、萩原、薮島、中尾、倉田、伊藤、31名

いつものように6時開始でしたがラグナ組の早い人は、5時半前には到着して、何人かの人はすでに待ちきれないのか飲み始めていました。いつもと違うのは、大きな声の響く山口さんの姿が見えないことです、代わりに山本氏の司会で始まり、会長の代わりに、門田氏の簡単な挨拶と乾杯で会が進行したことです。途中初参加の宮下氏の自己紹介を兼ねた挨拶、次回開催諸行事の連絡など、飲んで、食べて、話に花が咲いた楽しい2時間でした。今回は6組の方の夫妻での参加が目立ちました。

前回から辻さんの受付と会計を手伝ってもらっています会を運営するものとして大変助かっています、お礼を申し上げます。

✂初参加の方の自己紹介

☎宮下弘氏：66才、長野県出身、フィリピンの住所、Salced Village、来比の動機、子供がマニラで働いていて、孫と一緒に暮らすため、趣味、音楽、酒、



第57回ゴルフ大会

4月4日(水)オーチャード パーマーコース 9:00 集合～9:30 スタート

簡単なその日の様子、経過、雰囲気、天気など、あれば書いてください。

★初参加者の自己紹介

初参加者があれば、氏名、年齢、出身地、TEL NO、mail、ゴルフ歴、紹介者、フィリピンでの住所
入賞者の顔ぶれと、次回の HCP は、下記の成績表をご覧ください。次回開催はカンルーバンですが、開催日は未定です。

ここにシルバー会のゴルフ結果と写真を貼り付けてください



雑学の勧め 門田昌昭



NO25「4月の事件簿」その1

1. 戦争

a. 国家総動員法公布 1938年 国家総動員法公布、1938年4月1日「国家総動員法」が公布され、急速に激しさを増す日中戦争(1937年昭和12年7月7日の盧溝橋事件から日中戦争へ)に対応して、政府は大幅な権限を手にした。これによって中国戦線で消費される軍隊や弾薬等を、国内資源の統制や人材の徴用などによって補おうとしたもの。さらに1941年(昭和16年)の4月1日からは、この法律が強化改正され、コメの配給制度も始まるなど、国民生活は厳しい統制下におかれることとなった。

b. 戦艦大和の最後 世界最大(約7万トン、全長244m)を誇った戦艦大和は1945年(昭和20年)4月7日鹿児島南方の海上で米空軍の襲撃に遭い、沈没した。当時、戦況は日本にとってきわめて不利な状態にあり、大和は起死回生を期して、沖縄に向かうところであった。乗員約3000人が死亡したが、その様子は、奇跡的に生還した一士官が書いた「戦艦大和の最後」(吉田満著)に詳しい。

c. 「死の行進」1942年(昭和17年)4月9日は、バターン半島で(米比軍が敗れ、ジョナタン将軍が降伏文書に署名した日である。攻め込んだ日本軍よりはるかに多い7万人の捕虜を置き去りにしてマッカサーはコレヒドール島へ逃亡した。本間中将は、食料もなく疲労困憊(ひろうこんぱい)した捕虜を、コレヒドール島との間で砲撃戦を続けながら、食料のある後方(100キロ先のサンフェルナンド)まで護送した。もちろん国際法を順守して、一日20～25キロ以上歩かせなかった。でも、マラリヤにかかるものも少なくなかった、1万6千とも1万7千とも言われる死者が出た。有色人種に負けて屈辱感(くつじょくかん)を持つマッカサーは、本間中将を死刑にする口実として、この捕虜護送問題を使った。以後、「死の行進」と喧伝(けんでん)された。フィリピンのカレンダーでは、4月9日を祝日(阿拉瓦 ng kagitingan 勇者の日))している。

d. 東京初空襲 太平洋戦争が始まって4か月あまり、南方戦線に勝ち進んだ日本軍の勢いに早くも陰りが見え始めた1942年(昭和17年)4月18日アメリカは空母ホーネットから16機のB25型爆撃機を発進させ、東京などを初空襲した。日本側の死傷者約400名、政府の発表は「損害軽微」であった。

e. 治安維持法公布 1925年4月22日治安維持法が公布された。当初は共産主義者を取り締まる意図だったが、やがて、反戦、自由主義を唱える者などすべての人々に適用した。太平洋戦争が終わるまで、軍国主義体制を維持するために利用された。同法は、1928年(昭和3年)6月29日に改正され、より強化された(死

刑罪、目的遂行罪が追加された)。1945年(昭和20年)10月10日、GHQの命令で政治犯、思想犯約3000人が釈放された。

2 沖縄 我々が習ってきた日本史では、沖縄の歴史が欠落している。それで、琉球王朝に関わる2つの事件を記しておきます。

a. 琉球王朝の終焉(しゅうえん) 首里(玄沖縄県那覇市首里)に15世紀から続いた琉球王朝は、1879年(明治12年)4月4日、事実上消滅した。それまでの沖縄には琉球藩がおかれていた。王朝直系の尚泰を藩主としていた。琉球藩を廃して沖縄県とする明治政府の方針がこの日強行されたのである。尚泰は東京に移され、家族の扱いとなったが、琉球王朝の歴史は完全に終わりを告げた。「琉球処分」と呼ばれる出来事である。(注) 華族(かぞく)1869年(明治2年)皇族の下、士族に上に置かれた族称。始め旧公家、大名の家系の身分の呼称。1884年(明治17年)の華ぞくほうにより、明治維新の功臣のちには実業家にも適用され、公、侯、伯、子、男の爵位を授けられて、特権を伴う社会的身分となった。

b. 薩摩藩、琉球を従属させる。薩摩藩主島津家久は徳川家康の許可を得て琉球に出兵した。1609年(慶長14年)4月5日、琉球王尚寧が降伏して首里城を明け渡した。薩摩藩は関ヶ原の戦いに敗れ、明との交易にも行き詰まって打開の道を琉球に見出そうとした。こうして、琉球王国は日本に従属することになった。

3. ワールジュッタットの戦い

アジア人がヨーロッパ人をコテンパにやっつけた話を一つ記しておきます。チンギスハン(成吉思汗)のもとで強大な帝国を形成したモンゴルは周辺の国々を滅ぼし、ポーランドに侵攻した(1241年)。ドイツ、ポーランド諸国連合は、4月9日オーデル川の西のリグニッツ(現ポーランド領レグニツァ)でこれを迎え撃ったが、モンゴル軍の強さの前に敗れ去った。この事実、モンゴル帝国が自らの分裂で弱体化するまで、ヨーロッパ諸国に大きな脅威を与え続けた。ワールシュタットとは、この戦いの後でつけられたドイツ名で「死体の町」の意味。

=====

マニラシルバー会より、例会のお知らせ

マニラシルバー会は純粋な親睦の会です。会員に負担をかける事業などには一切関わっていません。気軽に集まって語り合う会員中心の会です。基本的には55歳以上で、健全な会の育成に協力いただける方の参加をお待ちしています。当会の会員は遠隔地からも多数参加されるので

1、奇数月はマカチ「きくふじ」第3日曜日

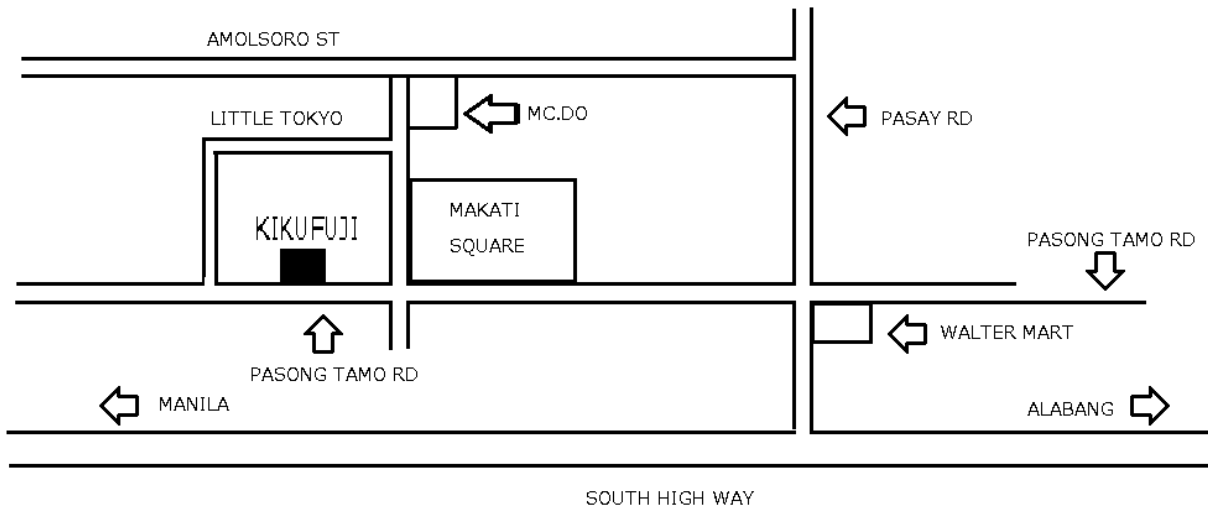
2、偶数月はパラニャーケ「SYABU-YAKI」第3水曜隔月で会場を変えて開催しています。◎参加ご希望の方は準備の都合上、前もって下記

石山 [TEL:0917-859-2688](tel:0917-859-2688) 小林 [TEL:0915-354-4528](tel:0915-354-4528) 堀井 [TEL:0918-918-6526](tel:0918-918-6526)

まで連絡下さい。次回開催は5月16日(水)午後5時~7時

参加要項と地図

◎参加費：600ペソ(鍋料理、生ビール付き)



****シルバー会ホームページ案内****

下記アドレスで立ち上げました。
一度アクセスしてみてください。

<http://www.manilasilverclub.org>

シルバー会のホームページについて、質問、問い合わせのある方は下記まで。

堀井満重 ☎0918-918-6526 井上完治 ☎0928-355-2598

のりさんの随筆 生きるということ 入江則昭

【3月号の続きより】植物の大きな特徴は美しい花だ。特別の色をして各々その特徴を表している。これはこの花の美しさを自慢しているのではなく、小さな虫や、鳥の興味を引いて、花粉をばらまく用をしているようだ。他の生き物に興味を持ってもらい、自分もそれによって利益を得ていく、戦わずして子孫を残す確実な手段を講じていく。さらに冬になると散っていく葉は、普通ならそのまま食物本体の栄養になるようにできている。用を果したいろいろなものも、その後の食物を育てる手段になっている。ここに人間がコンクリートの道を作ったりして、この散った葉が、使い物にならないように邪魔をしているが、そうでなければ、植物の廃棄物はすべて植物本体に還元されるようになっている。秋の上高地に行ったことがある。こういう時期、紅葉して散って行った葉っぱが本体のまわりに美しく集まって、素晴らしい光景をかもし出していた。動物はこうはいかない。動けないというただ一つの欠点を残して、あらゆる点で植物はうまく生きているなど感心してしまう。あまり気が生い茂って太陽の光が、到達しなくなると、自然に山火が発生して、周りの小枝を燃やしてしまう。幹も表面は燃えるが、中心部はそのまま残っている。アメリカのヨセミテ公園にある山火の現場を訪れたことがある。こういう山火は自然に発生し、必要なものを燃やしてしまうと自然に消えるらしい。だれが作ったものか知らないが、自然の現象はよくできているものようだ。(終わり)

=====

「タイヘイの Spain 紀行」

“Buenos dias の街から グストゲタ “ 森泰平

【3月号の続きより】

- ① 食物、飲み物について
- ② スペイン人の体型について
- ③ 物価について(ユーロドル使用、イギリスだけポンド使用)
- ④ 私(タイヘイ)の食事について
- ⑤ 治安と交通について
- ⑥ 気候そしてスポーツについて
- ⑦ スペイン語、宗教、スペイン帝国について

① ですが食料は大体すべてにおいて日本の7割ぐらい。野菜も粗末で果物もたいしたことはありません。リンゴ、ナシ、ブドウ、バナナ、柿などありましたがマンゴーはなし、リンゴは青森のフジがありません。やはり生産できないのだろう。ナシ、柿も色、味が悪いバナナ、マンゴーはマニラの店が断然甘みがありうまい。飲み物はビールがじつは、私は少し勘違いして San Miguel があるのです。マニラの1.5倍位の値段です(ブランドーなど)ワイン、水はととても安い。ワインはやはり3000年の歴史があり、日本の半額です。昼から皆ワインを飲んで車を運転している??。意外と交通事故は見ませんでした。ただしチーズやさらみのソーセージはよく売っていて値段が高い。牛乳1リットル60円、缶コーカ 60円、スパゲテ 500g 60円

② ですが太った人が移民した人と同様とても多い。マニラの人よりも太ってしまった身長も意外と小柄で良く孫のお守りなどしているが、タバコを街の酒場ですっている人も多い。日本、台湾などは、又登山などの人口が多い。日本人は費用をかけている。

③ 物価は日本より2割位安く、野菜は果物同様大体1kg 100円ぐらいです。実は私はあのマニラの SanMiguel beer はあれフィリピン産と思っていたイネブラのジンもマタドール(ブランドー)もです。でもこれ1890年はじめて?作ったときはスペインからすべて輸入したものではないか、だからもともとスペインが本場と思う。現在もブランドを輸出していると思う。醸造もスペインの技術でやっていると思う。よくフランスワインと言いますが私のあの Darío 先生によるとフランスはスペインから材料を輸入していたとか??ワインは日本の半額です。肉の燻製(太もも→牛、豚、羊)を2年がかりで作し、5000~8000円で年中スーパーで売られていた。エビ、貝はあるが魚はほとんど食わず、イワシの油づけを少し食う程度で、缶ビール60円、インスタントラーメン(1つ)80円

④ ですが、何しろ味噌、醤油、とんかつソースがありません。ラーメン、そばもありません、それで毎日、フランスパン、スパゲテ、ジャガイモ、ハム、コーヒーといった感じです。皆さんどう思いますか?これ毎日3ヶ月です。めしはモールで月一回のみ、私はワインも付き合いで飲みましたが、やはり酸っぱい感じがします、そしてよく泡を立ててその泡を飲んでいました??コーラを振って泡を飲んでいた子供もを見ました。

⑤ ですが治安は良く、マドリッド(人口350万)は地下鉄、地方ではバスや車を利用しているようです。私も毎日よく車で送迎されました。車はフランスやイタリア製が多い。日本の企業(IT関係や電子企業)も多い。駅、空港ではただし検査が厳しい。

⑥ ですが、私はこの時は15~18度Cぐらいで日本の秋そして2月1日の帰国の時は仁川が冬で5度C、マニラ30度Cと1日で3つの気温気候を体験しました。私はやはり日本人ですから柔道、剣道、空手など盛んであるとやはりうれしいわけです。何人か日本の講道館に招待したいものです。スペイン柔道のレベルは他のヨーロッパ諸国と似ていて同レベル。ドイツ、フランス、に次ぐ感じ。

⑦ スペイン語が私はわからないので主に英語でやりとりし、あとは身振り手振りです。フィリピン語の中で良く使うものは、スペインからきたものが多いらしく私ははずかしいがわかりませんでした。

スペイン語の Hielo は「氷」 gusto は「好き」 Como esta(コモエスタ)は「元気ですか」

これフィリピン語と全く同じさらに名前をよく聞いてみたらスペイン人は Jose(ホセ)、Adrian, Carlos, Paco, Lopez, Pablo, Alejandro, Spencer, Fernando, Marcos などこれマニラと同じでびっくでした同じカトリック王国のせいと思う。Augustin, Roxas, Puerto(港)、Buenos Aires もある。これやはりあの16世紀あた

りのスペイン帝国の名残と思う。南米のブラジル、チリ、ペルー、アルゼンチン、キューバ、ハイチ、ドミニカなどもスペインに征服されてしまった。失業率が高いわりに国民が親切で服装も高価なのは当時のスペイン王朝のような誇りがあるのではないか？ふとそう思いました。子供のチビッ子道場は基本的な帯の結び方がわからない生徒が多く受け身の取り方もまちまちでした。ここから教えないといけませんスポーツ化しています。私には構いませんが。

では今日は『マテ』『ソレマデ』……

Buenos dias の街からグストゲタ。……ということにします(続く) To be continued

台湾ゴルフ旅行参加報告

記 堀井満重

比台親善ゴルフ(第4回FVRカップ総勢70人参加)にPRA日本人倶楽部とシルバー会の会員男女8名が台湾の宜蘭県、花蓮県に3月6日より4泊5日で行って来ました、

(両県は台湾の太平洋側に位置している為マニラよりは少し肌寒い程度の気候でしたが台北は寒かった!)この旅行は平和友好交流活動としてゴルフフェデレーションと比中台の商工会等が主催シラモス元大統領と共に参加する年2回開催の近隣アジアへの親善旅行で今回は台湾でのゴルフトーナメントが行なわれました。

(我々日本人は彼等の企画に特別参加でゴルフプレーを格安で楽しむ旅行です、)

宜蘭県 2日間 5星 EVERGREEN RESORT 2泊(露天風呂)

1日目 マニラから中華航空で台北、バスで宜蘭市へ、

夜は県知事主催の歓迎ディナー(横浜中華街でも有名な料理人Mr 陳の高級料理店渡小月への招待で創作中華料理を堪能、本当に美味しい!)政府高官、知事閣下の挨拶の後、先の総統選挙で惜しくも負けられた民進党主席蔡英文女子も駆けつけ我々への歓迎のスピーチ、ラモス氏も何時もの葉巻を啜えラモス節で応戦、(英語中国語タガログでのやり取りで我々日本人は食べる事、飲む事に没等、其の後、様々な台湾人が片言の日本語で我々の席に県特産の老紅酒を持ち込み中国式の乾杯の連続グラスの1気飲みで盛り上がり、帰りには県特産のパイナップル饅頭等の色々な土産を頂き!寝る前に日本と同じような露天風呂で疲れを癒しました、

2日目 礁溪ゴルフ場(CHIAU SIH GOLF CLUB)

パー72でのトーナメント、山岳コースですが6992ヤードと長く綺麗な見晴らしのよい素晴らしい本格コースでのプレー、しかしキャデーさんは英語日本語タガログ語が全然ダメで言葉が通じず距離方向等の正確なコース戦略が出来ずにヒットし、OB、赤くい、池ポチャの連発、慣れてない高麗芝でグリーンが読めず3パットミスの連続、スコアは散々でした、(キャデーが悪い、グリーンが悪い、何でもこの様な所にOB杭があるのだ!と何時もと同じ他人の責任パターンでブツブツ言うプレーヤーもいました)

当夜はHCG陶器会社の招待、ゴルフの憂さを晴らす為、ワインを8人で10本も空け台湾料理の暴飲暴食、帰りに黄金色に輝く大便器を土産に頂き皆さん御満足、夜の探索は無でホテルの露天風呂に入り寝るだけの?健康健全な夜を過ごしました(酔パラッテ寝ただけ、との声も)

花蓮県 2日間5星 PROMISED LAND RESORT 2泊(理想の大地)

3日目 朝8時過ぎホテルよりバスで陸路花蓮県へ、断崖絶壁の景観を眺め3000メートル級の山肌を切り取ったあぶない道路を4時間掛かりで花蓮県に移動し其のまま市中にある大変古い花蓮ゴルフ場(昭和6

年開設戦争中は芋畑)でのプレー、さすが日本時代に作られたコースで9ホール程度の敷地内に18ホールパー72の変則本格コースでした(頭上を他コースからの球が飛び交い、海からの強風で何処に球が流されたのかキャデーさん以外分からない、カンチョ〜、観球〜との声こだまするコースで、スコアは当然90以下全員なし)其の後南国ハワイにきたような理想の大地にチェックイン(郊外の大変大きなコテージ風のリゾートで家族子供の喜びそうな、男同士寝るには味気ない、調達するには町明かりが遠い健全なホテルです)

当夜は新興仏教のTZUCHI財団の招待でのホテルディナー、酒、タバコ、ビン榔は禁止の戒律の為、アルコールは無ジュースでの乾杯、又も豪勢な中華料理、(毎日が中華料理で寿司が食いたいとの声も!)

4日目 朝から雨の為、目当ての太魯閣観光は危険の為中止、TZUCHI本部見学、

(さすが公称1000万人の信者の総本部、総檜作りの高価な本殿、人を威圧し従えさせる様な威容の大建築物で信者の奉仕活動が盛んな宗教です、(日本震災援助やフィリピン台風被害の援助等、世界で活躍されている様です、(金はどこから?)

昼食に精進料理を頂き体の中より浄化されたようでした(誰とは言いませんが高校時代に戻り陰で隠れタバコはしっかり吸われていたようです)

其の後県庁に親善の挨拶にお伺いし高砂族(フツ族)の郷土踊りを見せて頂き県知事より手土産に県特産の米、茶、を頂き(少女の踊りが可愛いかった、荷物が重かった!)みやげ物屋へ買い物に、(午後6時に荷物を纏めるよう言われているので選ぶ暇がない!)夜はラモス氏を中心にゴルフのアワードで成績、優勝者など見向きもせず(日本人誰も賞に入らず!)ウイスキー、ブランデー、中華をたらふく飲み食い、部屋に帰ってからも飲んで高校生の修学旅行気分でおバカをされた人もいました、(還暦を越えた人達とは思えず、酔いが醒めれば赤面の至りです)

5日目 本日マニラに帰国、朝5時に起き6時30分ホテル出発、電車で台北へ、

日本人なのに出発時間に遅れる人あり其の辺を探したり部屋に電話したり 本人は大納言をしていたが急かせるので中納言で止めたとブツクサ、待たされた方は電車だから待ってと大変やきもきしていました、(彼はO型かB型、私はA型!)電車で2時間無事桃園空港に着き全員怪我も無くマニラに帰って来ました。(次回の親善ゴルフ旅行は10月頃に中国へ行く計画です!)

台湾キャデー語録

- ① ンプレー、(テンポラリーグリーンです)、仮のグリーン
- ②カンチョウー、(人の球に気を付けてよく見ている、危ないぞー) 観球
- ② パイチチスイー、(残り距離170ヤードぐらい)
- ③ ン、マン、(重い遅いグリーン) 私の名前は満重、ノロマと云う意味か!

以上、又次回も皆で参加出来るように願っています!

編集雑感 日本では寒かった冬も終わり桜が満開となり過ごしやすい季節となりました。フィリピンでは、日中の暑さが増してきたようです、又一足早く学校は夏休みとなり、我々ローロ、ローラにとっては暮らしにくくなってきました、この暑さに向かって負けないように体の管理、適宜な睡眠と、食事についても気を配って過ごしましょう、特に水分の摂取は忘れずに!!

今月号は、いつもの門田、入江、森、各氏のほかに堀さんの台湾行の原稿の寄贈をいただきました。ありがとうございました。